

# 心がつながる

校長 三浦 一富

8月1日、金井運動公園プールで、今年の“佐渡市小学校親善水泳大会”が行われました。小木小学校からは、例年以上の17名の選手（5、6年生）が出場しました。

一人一人が、放課後の課外水泳練習を積み重ねてきました。その頑張りをもとに、自己記録の更新を目指し、本番の競技に臨んだ子どもたち。その頑張りは、大変すばらしいものでした。（お陰で、結果も入賞9つという立派な成績を上げました。）

そのような大会参加の中、高橋高志先生（以前小木小学校にお勤めで、現金井小学校。大会の副審判長を務める）からいただいた、次の言葉が今も印象に残っています。

小木小の子どもたちがスタート前、選手コールで名前を呼ばれた時、テントから声援を送る仲間たちとの「つながり」をすごく感じました。

選手名がコールされ、「小木小学校」と校名が呼ばれた時、テントで待機する子どもたちの大きな声援と拍手。ここに、これから頑張る選手に「届けー！！」という気持ちが込められているのです。その一体感を、高橋先生は、見取ってくださったのだと思います。

今年的小木っ子たち、子ども同士や先生からの働き掛けに対し、「はい！」という返事を、いつもしっかりと返してくれます。相手も何となく分かってくれるだろうではなく、自分の気持ち、意思是、「しっかりと言葉で、態度で示すぞ！」という心意気を感じています。



そのような表現からも伺える、子ども同士の「心がつながる姿」をこれからも大切に、応援していきたいと思います。